

連載 50

仕事について考える

札幌大谷大学社会学部  
教授 平岡祥孝

舗道に

落ちた淡いピンクの花びらは、いとあわれ。まさに日本的な情趣に富むだけなく、愛惜の情を呼び覚ます花とも言えましょうか。さすが桜は散っても魅せますね。その儚さゆえに、なぜか心に残る花。また来春、和ませてくれるでしょう。過日、「フレッシユスタート塾

事業」開始に際して講義を担当させていただきました。この事業は昨年度から始まった札幌市独自の研修事業で、新卒未就職者の早期の正社員就職を支援します。その特徴的な点を幾つか挙げましょう。まず厚生労働省の補助金ではなく札幌市の単独予算で運営されることです。もちろん事業委託者を選定します。ただし札幌市が主体的に関与して研修内容を組み立てています。そして雇用推進部の管理職・職員自らが学校訪問をして事業内容を紹介するとともに、職場研修受け入れ先企業も訪問して経営者や実習担当者との意見交換します。雇用推進部の管理職自らが研修講師も担当します。

この事業も、広い意味では官民パートナーシップの実践例でしょう。委託事業者に丸投げすることなく、従来の中央依存・補助金頼みの雇用政策とは似て非なるもの。地域活性化や地域創生を目指すならば、雇用の場を創り出すだけでなく、人材養成も地域主体で担わなければならないかもしれません。地方自治の発想からすれば当然あるべき施策ですが、広義の地域政策を勉強する重要性を認識するためにも、自治体職員の意識改革を進める必要があります。

就職内定率が上昇しつつある状況にあつて、卒業までに就職が決まらなかったことは挫折の一つかもしれないかもしれません。また、一足早く職業生活を送り始めた友人と比べて劣等感に苛まれるかもしれません。けれども、さしたる準備もすることなく内定を得て就職したところで、定着して働き続けることが出来る保証はありません。あくまでも老婆心ながら、とりわけ高卒内定率の上昇は、裏を返せば離職率が高まる恐れを抱いてしまいます。失敗を繰り返しつつも何とか生き抜いてきた初老の筆者から見れば、多少なりとも職業社会への移行が遅れても、正道を着実に歩むことの大切さを再認識することは、これからの人生にとって極めて意味ある経験則となると思います。

バスに乗り間違えた新人さんも少なからず。北海道は全国平均よりも新卒の離職率が高い地域です。



【ひらおか・よしゆき】札幌大谷大学社会学部教授。英国の酪農経営ならびに牛乳・乳製品の流通や消費を研究分野としている。女子学生の就職支援やインターンシップ事業に携わってきた経験から、男女共同参画、ワーク・ライフ・バランス、仕事論、生涯教育などのテーマを中心に、講演やメディアでも活躍。

よ。バスに乗り遅れたならば、次のバスに乗ればよし。今回の事業では、札幌市が臨時バスをガイド付きで出してくれまます。一度就職活動に失敗しても、また夢破れて離職しても、次の夢を見るべく故郷の自治体が手を差し伸べてくれるならば、安心ですね。

自信を持って働き続けるためには、「自分づくり」が必要不可欠。いつもながらの筆者の独断と偏見ですが、そのためには一定の基礎学力を養うこと、人間性を豊かにすること、社会人の一員になる準備をすることが、肝要。意志あれば道あり。ただ積み重ねあるのみ。自分自身を鍛え直すつもりで、反省・改善・進歩・成功という過程を踏んだ就職活動を体験できる場が与えられたと考えませんか。就業力を向上させるためには、社会人基礎力を伸ばしていくことが求められます。謙虚に学ぶ姿勢を忘れることなく意欲的に取り組んでいくならば、必ずや就職の機会が巡ってきます。正しい努力は決して裏切りませんから。

ARTS



浦幌幼稚園  
あさがお組のみんな

町のマスコット「ウラハとホロマ」を折り紙で折ってみました。  
かわいくユニークなウラハとホロマのできあがりー！！

